

# 将来構想

## 1 目的と期間

### 1 目的

蕨市将来構想は、著しい変革を続ける社会経済動向に対応しながら、市民と行政とが共有すべき未来の蕨市のまちづくりを総合的・計画的に進めるため、まちづくりの理念やまちの将来像などを示すものです。

### 2 期間

本将来構想の計画期間は、平成26年度から平成35年度までの10年間とします。

## 2 まちづくりの理念

これまで蕨市では、市民と市民、市民と行政とがお互いに協力し合うまちづくりが進められてきました。現在も、まちを舞台として、まちの魅力を高めるさまざまな地域活動が活発に行われています。

このような、みんながお互いに協力し合うまちづくりは、これまで築いてきた蕨市の大きな財産であり、今後も高めていくべき大切な姿勢であることから、未来の蕨市のまちづくりを進める上での「取り組みの基本姿勢」を、まちづくりの理念として次のとおり示します。

みんなで未来の蕨を創る

## 3 まちの将来像

まちづくりの理念を基本として、今後10年間で蕨市が目指すべき「将来のまちの姿」を次のとおり掲げます。

安心とにぎわい  
みんなにあたたかい  
日本一のコンパクトシティ蕨

私たちの蕨市は、かつては中山道の宿場町として栄え、また、現代では東京近郊の住宅都市として、お互いが助け合うあたたかいコミュニティを育んできました。

未来の蕨市のまちづくりには、何よりも安全に、そして便利に暮らせる都市環境と、だれもが暮らしやすい支え合いの心が求められます。

このため、市民と市民、市民と行政との協働によるまちづくりを力強く進めることで、だれもが安全で安心して暮らせる住宅都市としての機能を高めるとともに、地域資源を活かした蕨らしさを創出し、まちの活力を育てていきます。

こうして、日本一小さな市域の中に歴史や文化がとけこみ、人と人が触れ合うコミュニティのあたたかさがぎゅっと詰まった、住みやすさ日本一のまちを目指します。

## 4 まちづくりの基本フレーム

今後10年間におけるまちづくりの「基本的な枠組み」となる、蕨市の人口と、都市形成の考え方を次のとおり示します。

### 1 人口

本将来構想の計画期間における蕨市の人口を約72,000人と見込みます。

平成25年4月1日時点の人口は72,166人となっています。蕨市では少子高齢化が進んでいることから、近年では出生者数を死亡者数が上回る自然減の傾向にあり、今後の人口の動向については、これまで以上に転入者と転出者の差である社会増減の影響が大きくなると考えられます。

このような背景から、最近10年間の社会増減の動向を反映させ、コーホート要因法\*により平成35年の蕨市の人口を推計すると約71,500人となりますが、ここでは、だれもが住みやすいまちづくりや、市民が愛着を持って住み続けられるまちづくりを目指していくものとし、平成35年における蕨市の人口を約72,000人と見込みます。

### 2 都市形成

日本一小さな市である蕨市では、限られた土地を有効活用しつつ、都市の基本的な機能である「にぎわい」や「暮らしやすさ」を高めていく必要があります。

蕨市の現在の都市構造に立脚しつつ、特色あるまちづくりを展開していくため、都市形成の基本的な考え方を次のとおり示します。

#### ①「にぎわい」の空間づくり

蕨駅を中心とする地域には、鉄道・バスといった交通機関をはじめ、商業・業務施設\*など人々の生活における中心的な機能が集積しています。この蕨駅周辺を「都市機能の核」と位置付け、土地の有効活用を図りつつ、交通拠点機能や商業・業務機能なども高めながら、まちの顔としてのイメージアップへとつなげていきます。

一方、江戸時代に宿場町として栄えた中山道蕨宿を中心とする地域には、ほかにも、歴史民俗資料館分館や三学院、和樂備神社といったまちの歴史・文化を感じさせる資源が数多くあります。この中山道蕨宿周辺を「蕨らしさの核」と位置付け、地域資源をまちづくりに有効活用しながら、他のまちにはない蕨らしさを発揮していきます。

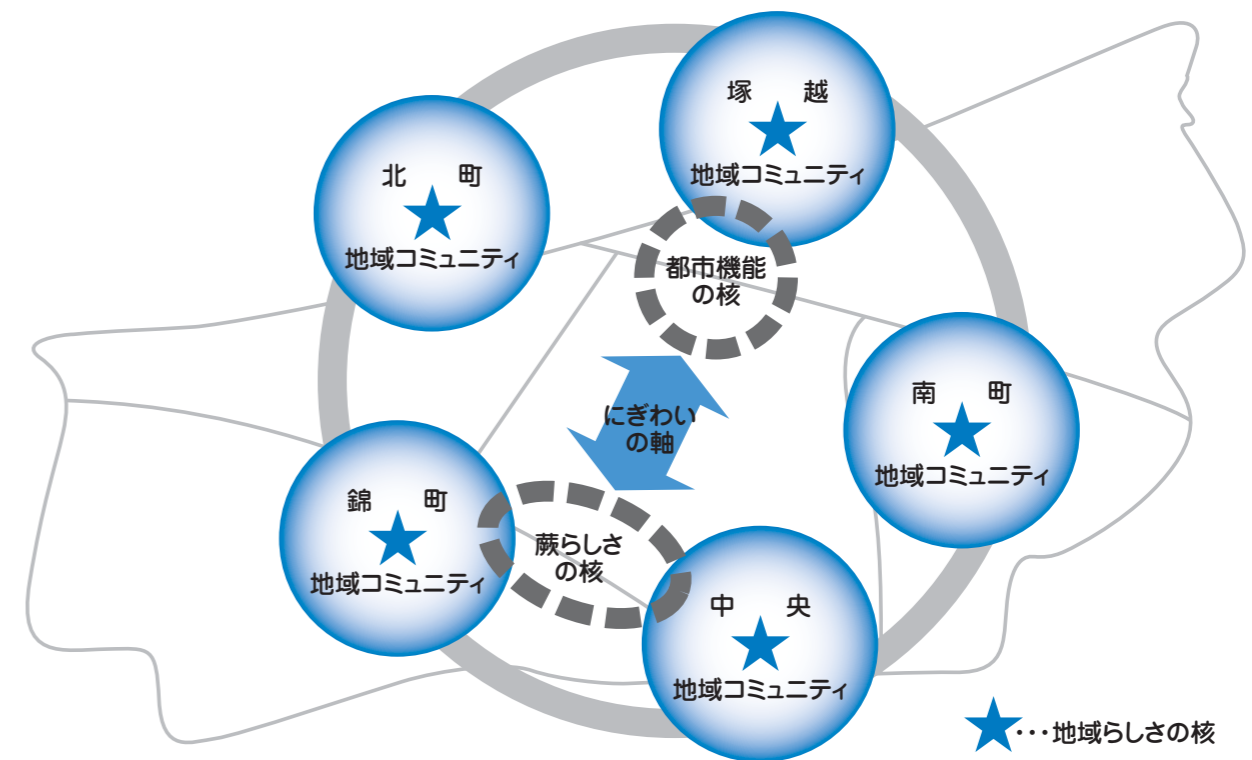
更には、この「都市機能の核」と「蕨らしさの核」を結ぶ地域を「にぎわいの軸」と位置付け、商店街の活性化支援などを通じ人と人が触れ合うまちづくりを進めることによって、だれもが楽しく行き交う、にぎわいの空間づくりを進めていきます。

#### ②「暮らしやすさ」の空間づくり

蕨市では、5つの地区ごとにコミュニティ・センター\*が整備されており、地区ごとに特色あるコミュニティ活動が行われています。このような活動は、人と人とのつながりが希薄化しつつある現代社会にあって大きな安心感をもたらす要素であり、蕨市の大きな魅力となっていることから、この各コミュニティ・センター\*を「地域らしさの核」と位置付け、今後も地域におけるさまざまなコミュニティ活動の活性化を図っていきます。

また、通学路や生活道路の整備、住宅地の適正な整備と維持管理、緑化の推進などにより、だれもが住み続けたい、住んで良かったと感じられる、暮らしやすさの空間づくりを進めていきます。

図表 都市形成の概念図



## 5 まちづくりの基本方向

今後10年間におけるまちづくりの基本方向を次のとおり示します。

### 1 安全で安心できるまちをつくる

平成23年3月11日に発生した東日本大震災は、東北地方を中心に未曾有の被害をもたらしました。蕨市では直接的な被害は小さかったものの、震災を契機として、防災に対する市民の関心が高まっています。

蕨市は、5.1km<sup>2</sup>の市域に約72,000人が暮らす、日本一人口密度の高い市です。小さな市域に多くの市民が暮らしていることから、災害に強いまちづくりと地域の防災活動における担い手づくりが不可欠です。暮らしの場としての安全性を確保するために、市街地・住宅地の防災機能の充実や、消防・救急機能の強化、各地区のコミュニティ活動を通じた地域防災力の向上などにより、災害に強い安全なまちをつくっていきます。

また、地球温暖化など、地球規模の環境問題への貢献を視野に入れた、循環型社会\*への取り組みを進めるとともに、犯罪の少ないまちを目指して継続的な防犯対策に努め、人と人とのつながりを活かした地域の防犯機能を高めて、安心できるまちをつくっていきます。

### 2 にぎわいあふれる元気なまちをつくる

蕨市は、中山道蕨宿や寺社などの歴史、絵画や音楽などの芸術・文化、機まつりや全国で初めての成人式（成年式）といった祭事や行事、双子織\*やわらびりんごなど、多彩な地域資源を有しています。

これらは、他のまちとは異なる蕨市ならではの特性であり、暮らしの場としての愛着を深める大切な要素です。また、蕨市を更に魅力あふれるまちにしていくためにも、地域資源の有効活用と効果的な情報発信が不可欠です。

このため、地域資源を生涯学習活動や文化活動だけでなく、商店街の魅力の向上をはじめとする、まちづくりのさまざまな場面において活用することにより、蕨らしい特色ある地域づくりを進めるとともに、長く蕨市のにぎわいの中心を担ってきた市街地の活性化を図り、あわせて、起業支援や関係団体との連携など、産業振興に努めることにより、市民にとって便利でにぎわいあふれる元気なまちをつくっていきます。

### 3 みんなにわたたかくだれもが住みやすいまちをつくる

蕨市は、首都東京から20km圏内にあり、通勤・通学に便利な立地条件のもと、住宅都市として発展してきました。

現在の蕨市では、子どもを持つ親世代の転出などによって少子化が進む一方、75歳以上の世代は比較的多いことから、市民の少子高齢化が進んでいます。

このような状況のもと、蕨市が持つ住宅都市としての魅力を更に高めていくためには、これからも暮らしの場としての機能の向上を図り、だれもが住みやすい、住み続けられる環境をつくることが不可欠となります。

このため、各世代のニーズを踏まえながら、住まいの環境づくりの支援や、子育て支援の充実と特色ある学校教育の展開に引き続き努めるとともに、だれもが暮らしやすい多様な視点からのまちづくりを進めます。また、高齢者や障害者の支援に加え、子どもから高齢者までを地域で見守る地域福祉の体制を充実することにより、市民が安心して子どもを産み育てられ、将来にわたり住み続けられる、みんなにわたたかくだれもが住みやすいまちをつくっていきます。



## 6 まちづくりの基本目標

今後10年間におけるまちづくりの基本方向に基づき、まちづくりの基本目標を次のとおり示します。

### 1 安全で安心して暮らせるまち

【防災、防犯、交通安全、消費生活、消防・救急】

災害から市民の暮らしを守るため、関係機関との連携を図りながら、市民の防災意識を高めるとともに、地域防災体制の一層の充実を図り、災害に強いまちを目指します。

また、犯罪や交通事故などから市民の暮らしを守るため、市民との協働や警察など関係機関との連携による積極的な防犯活動や交通安全活動を展開していくとともに、消費生活に関する相談機能の充実などを進め、日常生活における危険や不安のないまちを目指します。

更には、地域との連携や消防施設・設備の計画的な整備と充実を図り、消防・救急機能の強化に努め、安全で安心して暮らせるまちを目指します。

### 2 豊かな個性を育み子どもたちの未来輝くまち

【子育て支援、学校教育、青少年の健全育成】

将来を担う子どもたちと子育て世代の市民のために、地域と連携しながら、多様なニーズに応じた子育てを応援する環境をつくり、安心して子どもを産み育てることができるまちを目指します。

また、一人ひとりの個性を尊重し、生きる力を育む学校教育を展開するとともに、家庭・学校・地域の連携を進め、子どもたちが健やかに学び、育つ環境を整えていきます。あわせて、学習と活躍の場の提供を通じて広い視野と自立心を持つ青少年を育てることにより、子どもたちの未来が輝くまちを目指します。

### 3 みんなにわたたく健康に生活できるまち

【地域福祉、社会保障、高齢者支援、障害者支援、健康づくり、医療】

市民がいつまでも自分らしく、住み慣れた地域で暮らしていけるよう、市民・団体・事業者の協力・連携によって地域福祉活動を進めていくとともに、社会保障制度における適切な運用と高齢者・障害者の支援を展開し、だれもが地域の中でいきいきと生活できる、みんなにわたたくいまちを目指します。

また、市民の健康に対する意識の向上を図るとともに、保健・医療・福祉の連携などによる包括的な保健医療体制づくりを進め、いつまでも健康に暮らせるまちを目指します。

### 4 にぎわいと活力、市民文化と歴史がとけあう元気なまち

【地域資源、産業育成・支援、勤労者支援、生涯学習、文化振興、スポーツ・レクリエーション】

歴史的・文化的資源をまちづくりに活用し、新しい事業活動の創出などを促進するとともに、既存商店街の魅力の向上や事業者の経営安定のほか、勤労者が働きやすい環境づくりなどを支援することにより、にぎわいと活力あるまちを目指します。

また、市民一人ひとりが生涯を通じて学び、交流の輪が広げられるよう、さまざまな活動機会の提供や団体の育成支援などに努めていくとともに、市民の自主的な文化・芸術活動を支援し、地域に根ざした多彩な文化が薫るまちを目指します。

更に、市民のだれもがスポーツやレクリエーションを楽しめるよう、推進体制の整備や施設の利便性の向上を図り、いつまでも元気に活動できるまちを目指します。

### 5 快適で過ごしやすく環境にやさしいまち

【市街地整備、道路・交通、上・下水道、公園・緑地、住宅、環境保全、廃棄物処理】

市民のだれもが将来にわたり住み続けられる都市環境を整えるため、地域の特性に即した市街地の整備を進めるとともに、道路・交通の安全性や利便性の向上、上・下水道の計画的な整備、市民との協働による公園の管理や緑化の推進など、居住環境の整備に努め、快適で過ごしやすいまちを目指します。

また、市民にとって更に暮らしやすい環境をつくっていくため、市民・事業者の環境に対する意識の向上を促しながら、環境に負荷を与えない循環型社会\*の形成に向け、環境保全対策やごみの減量・再資源化、適正な廃棄物処理などを進め、環境にやさしいまちを目指します。

### 6 一人ひとりの心でつなぐ笑顔あふれるまち

【地域コミュニティ・市民活動、人権・平和、国際交流・多文化共生、男女共同参画】

市民による自主的なまちづくり活動を更に活性化していくため、地域コミュニティと、各種団体・NPOなどによる市民活動を支援するとともに、これらを有機的にネットワーク化し、お互いの顔が見える安心感に満ちた、笑顔があふれるまちを目指します。

また、市民一人ひとりが尊重されるまちづくりを進めるため、さまざまな機会を捉えて人権や平和、国際交流や多文化共生、男女共同参画についての学習や実践を促すことにより、一人ひとりの心でつなぐまちを目指します。

## 7 「コンパクトシティ蕨」将来ビジョン推進のために

「コンパクトシティ蕨」将来ビジョンを着実に進めていくため、まちづくりの理念「みんなで未来の蕨を創る」を取り組みの基本姿勢とし、横断的なまちづくりの目標を次のとおり示します。

- 1 市民と行政との協働によるまちづくりを一層推進するため、市民への積極的な情報提供と、市民ニーズの把握に努めるとともに、市の計画づくりや事業実施などの機会を捉えて多様な市民参画・協働の場を設け、市民が主役のまちを目指します。
- 2 時代の変化と市民ニーズを踏まえた、柔軟で的確な、更に市民にやさしい行政運営を進めていくため、人材育成や組織体制づくりなどを通じて、士気が高く、自ら考え市民のために行動する行政を目指します。
- 3 市民の視点に立った明確なビジョンを定め、計画的かつ合理的な行政運営を推進するとともに、施策・事業の適正化に努め、スリムながら効果的にサービスを提供できる行政を目指します。また、厳しい社会経済状況のなか、自主財源の確保に努めるとともに、歳出の見直しを図りながら安定的な財政運営に努め、自立した健全財政のまちを目指します。